

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

(MS Word)

## 【氏名】

松坂 雅子

## 【所属】(助成決定時)

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

## 【研究題目】

近代イギリスにおける技芸 (art) と奢侈——織物に表れる植物文様を手がかりに

## 【研究の目的】(400字程度)

本研究は、18-19世紀前半イギリスの織物を対象に、当時の自然観察とその表現の傾向を分析し、図案の流行の推移を探る。これにより、一見相いれない〈美・科学的観点からの理知的行動としての生産〉と〈欲望充足としての奢侈的消費〉とはどのように交錯しつつ消費社会が発展したのかを明らかにする。この際、当時の art という概念に着目することが要となる。art は元来「わざ、技芸」一般を包括的に指す概念であり、art の基礎となるわざと考えられたのが、目で事物をよく観察しそれを手で表現できることであった。織物の art は、植物、昆虫など自然の観察に基づき、当時の美的判断/趣味 (taste) をもって図案を作成し、それを織りの技法を理解したうえで文様として表現するという一連のわざである。同時に織物は、流行など消費者側の意向を反映して製作されるものでもある。消費側の嗜好と生産側の art がどのように具現化されたか、織物の意匠を分析し明らかにすることが本研究の狙いである。

## 【研究の内容・方法】(800字程度)

所属先である京都服飾文化研究財団 (以下、KCI) と Chertsey Museum (イギリス、サリー州) の収蔵品には、同じ図案でありながら図案が反転した 1735 年頃の織物で作られた衣装が含まれる。このことは、当時人気を呼んだ図案が複数の工房に出回り織物が織られたことを示唆する。この例を手がかりに、当時の図案家と織布工の工房との関連やモデルとなったと推測される植物の分析、他の織物との比較を進める。

以上を研究の主軸に据え、下記の内容に取り組む。

・準備作業① 植物図譜の研究史の整理：織物の植物柄を分析する準備作業として植物図譜の研究史を整理する。どのような植物が関心を集めどのような環境で観察され (新大陸やアジアで観察され実物が持ち込まれたのか画として伝わったのか、庭でかけあわされた品種が観察されたか)、どのように画として表現されたか変遷をおさえる。

・準備作業② 消費・奢侈の歴史に関する先行研究の検討：Maxine Berg、John Brewer ら消費社会の発展に関する議論の理解を深め、これまでの消費に関する研究史を整理する。また共通の関心の近代イギリス史研究者数名とともに関連文献の定期的な検討会を行う。

・18世紀のイギリスの織物を中心とする調査：スイスの織物博物館/研究所であるアベッグ財団における収蔵品調査や、特別展「A Taste for the Exotic –European Silks of the Eighteenth Century」の見

学、本展担当者との議論を行う。またイギリスの Chertsey Museum を訪問し、冒頭で言及した衣装を始めとする収蔵品調査と、同館キュレーターとの意見交換を行う。画像比較のみでは観察しきれない細部の違いを中心に調査する。さらに本研究と問題関心の重なるロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館 (V&A) 「Fashioned From Nature」展を見学し、企画担当者との議論を行う。同館所蔵の収蔵品の調査もあわせて行う。

#### 【結論・考察】(400字程度)

18世紀前半までは最新の文様の織物の衣装を纏うことがファッションとして重要であった時期であり、如実に当時の関心が織物の文様として表れた。本研究では「自然主義」といわれる 1730-50年頃にイギリスで製作されたと考えられる織物に重点を置いて検討した。

とりわけ注目したのが、KCI 所蔵の織物とは反転した文様を持つ Chertsey Museum 所蔵の織物である。調査の結果、KCI の所蔵品と比べて、ポワン・ラントレと呼ばれる濃い色と薄い色を組み合わせる写実的に陰影表現をするための織布技法が一部省略されていることや、杼の打ち間違いがあることが分かった。これらから、確実な結論は導き出せないものの、Chertsey Museum の収蔵品は原案の紋意匠図(=経糸・緯糸の計画図)から直接織られたのではなく、完成された織物からリバースエンジニアリングのように紋意匠図が製作され、これに基づいて織られた可能性が示唆される。既存の織物をもとに類似の織物を織ることは当時珍しくなく、実際にアベッグ財団の特別展においてもヨーロッパと中国とで同じ文様が織られた事例が紹介されていた。今後このような事例をより多く調査し分析することが課題として残される。